

平成 22 年 12 月 1 日

がん患者さんの 2/3 は強い痛み（がん性疼痛）を経験すると言われています。この痛みは我慢しても軽くなることはなく、病状の進行に伴い強くなります。しかし、痛みと徐痛効果の知識不足、医療用麻薬に対する抵抗感や誤解により痛みを我慢している患者さんもいらっしゃいます。

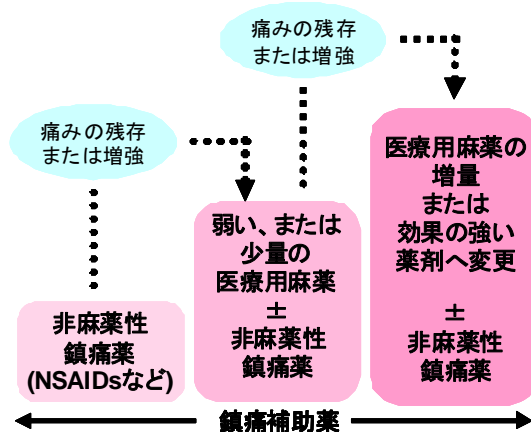
今回は、「がん性疼痛の治療薬」についてお話をしたいと思います。

● 疼痛治療に使用される薬について

がん性疼痛の治療は、右図のように痛みの強さに応じて段階的に治療を行います。

非麻薬性鎮痛薬を基本として、痛みが増強するごとに医療用麻薬を追加していきます。

非麻薬性鎮痛薬と医療用麻薬を併用することで、より効果的な徐痛につながります。



● 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)

NSAIDs とは、一般的な痛み止めのことで、ロキソニン®やボルタレン®等がよく知られています。痛みや炎症を伝える物質が生成されるのを阻害することによって作用を発現します。

● 医療用麻薬

一般に、「麻薬」と言えば覚醒剤や大麻といった闇で取引されている怖い薬物と誤解されていることがあります。しかし、以下の表のように「医療用麻薬」と不正麻薬には違いがあります。痛みのある人に対して医師が適切に処方する医療用麻薬は安全で効果的です。

しかし、処方された医療用麻薬を他人に譲ったり、指示された用法・用量を守らないで使用した場合、重篤な副作用（呼吸困難など）が現れたり、「不正使用」とみなされる場合がありますので、使用に際しては注意が必要です。

医療用麻薬	不正麻薬・覚醒剤など
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 有効性・安全性が確認され、国が承認した用法・用量で使われる薬剤です。 ◆ 医師が必要な方に必要な量処方して使用されます。 ◆ 処方通りに使用すれば、依存を生じにくい事がわかっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 法律で禁止されている薬物です。 ◆ 一時的な快楽のために不正に使用されることが問題となっています。 ◆ 使用を続けると中毒や精神的、肉体的依存を生じる危険性があります。

● 医療用麻薬の種類と形状

患者さんのからだの状態や痛みの症状によって使い分けられるように剤形（形状）もさまざまなものが開発されています。



● 飲み薬

* 効き目が短い飲み薬

効き目が短いため 1 日に何度も飲む必要がありますが、効果の発現が早いというメリットがあります。鎮痛作用の調節や、急に痛みが強くなったときに飲むことがあります。

* 効き目が長い飲み薬

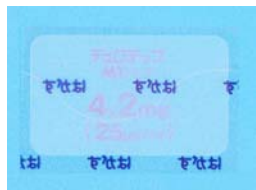
有効成分がゆっくり作用するように工夫されています。飲む前に割ったりかみ砕いた場合、成分が急に体内に入って副作用を起こすため注意が必要です。

● 坐薬（肛門から入れる薬）

吐き気・嘔吐などのために飲み薬を飲むことがむずかしい患者さんに使われます。ただし、下痢などの場合には、ほかの形状の薬を選びます。

● 貼り薬（パッチ）

皮膚に貼ることで有効成分が吸収され、痛みを抑える薬です。一般に、先に飲み薬で痛みをコントロールし、痛みをとるのに必要な薬の量がわかってから使います。



● 痛みのコントロールと追加投与（レスキュー・ドーズ）

鎮痛効果の安定している患者さんでも、一過性の強い痛み（突出痛）が出現することがあります。突出痛に対しては、効き目が早く現れる鎮痛薬を追加投与することで対応します（レスキュー・ドーズ）。追加投与を 1 日に 3、4 回必要とするようなら、痛みが上手くコントロールできていない可能性があるため、ご相談ください。レスキューの目的を正しく理解することは徐痛の質の向上につながります。

● 医療用麻薬の副作用と対処法

医療用麻薬による副作用は、下のようなものが起きやすいですが、大部分は対処可能です。そのほかにも気になることがあればお知らせください。

吐き気・眠気 投与開始時や増量時に出現します。大部分は 1～2 週間で消失し、吐き気止めなどの薬が処方されます。

便秘 投与開始直後から見られ、投与中は継続することが多いです。緩下剤を予防的に使用します。また、お腹をマッサージしたり水分や食物繊維を多く摂取することも大切です。

せん妄 初期は夜間に落ち着きがなくなり、次第に幻覚や妄想が現れます。薬を減量・変更したり、せん妄をおさえる薬が新しく処方されたりします。

(参考)